

自宅や家財を浸水から守るために

浸水被害を軽減する方法

浸水に備えて普段からできることがあります。

普段から

側溝や排水溝の清掃をしましょう。

雨水がスムーズに流れなくなると、雨水がたまり、浸水が発生します。普段から側溝や排水溝の掃除をして、水はけを良くしておきましょう。



保険・共済に加入しましょう。

浸水被害からの生活復旧には、想像以上の費用がかかります。水害に対応した保険や共済に加入しておくことで、生活復旧への支援が受けられます。



水道・電気・ガス・トイレなどのライフライン停止に備えましょう。

ライフラインの停止は長期に及ぶ可能性もあります。復旧するまでの数日間のために、飲料水や食料などの備蓄があると安心です。

非常用備蓄品は、47ページ



台風が近づいているときなど大雨が予想されるときには、台風接近前や大雨が降る前に、できるかぎりの対策をしましょう。

大雨が予想される段階

屋外の作業は大雨が降る前に

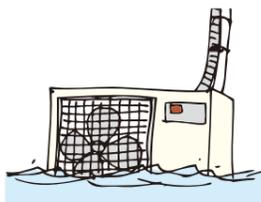
物干しざおや物干し台は寝かせ、風で飛ばされそうな植木鉢やゴミ箱などは、室内に入れておきましょう。窓や屋根の補強などは、早めに終わらせておきましょう。



自家用車を早めに安全な場所へ移動しておきましょう。



エアコンの室外機や配線類から漏電の危険性があります。ブレーカーを落としておきましょう。



浄化槽に土砂や泥が浸入しないように、浄化槽のフタがしっかりと閉まっているか確認しましょう。また、プロアー（浄化槽ポンプ）の電源を切り、高い場所に移動しておきましょう。



出入口に板などを設置し、浸水を防ぎます。



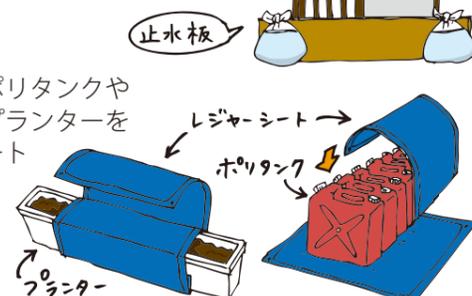
簡易水防工法で浸水を防ぎましょう。

簡易水防工法は、家庭にあるものを使って家屋への浸水や流入を防ぐ方法で、水深が浅い段階では有効です。玄関などの出入口のみならず、床下への浸水の防止も重要です。



40リットル程度の容量のゴミ袋を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。これをダンボール箱に入れ、連結して使用します。

水を入れたポリタンクや土を入れたプランターをレジャーシートで巻き込み使用します。



積乱雲（入道雲）の下では、竜巻や急な豪雨が発生することがあります。

こんなときは発達した積乱雲が近づいています。すぐに安全な場所に避難しましょう。

- 真っ黒な雲が近づき、周囲が急に暗くなる
- ヒヤッとした冷たい風が吹き出す
- 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする
- 大粒の雨やひょうが降り出す



気象庁

雨雲の動き（5分毎の降水予報）を見ることができます。

URL <https://www.jma.go.jp>



水平方向（横）の広がり
は数kmから十数km程度



高さは十数kmに達する

竜巻から身を守る

雨戸・カーテンを閉め、窓から離れる

電柱や太い樹木には近づかない

シャッターを閉める

家の1階の窓のない部屋に移動する

物置やプレハブの中は危険なので入らない

丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくして頭を守る

駆け込める建物がない場合は、頑丈な構造物の陰に入り、身を小さくする

頑丈な建物の中に駆け込む

思わぬ場所からの浸水を防ぎましょう。

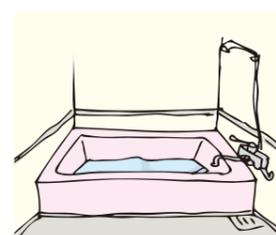
建物の周辺が浸水すると、下水が逆流して、排水口などから水が噴き上がることがあります。水を入れたビニール袋などを置いて、逆流を抑えましょう。



下水が逆流すると、トイレから水が噴き上がることがあります。水を入れたビニール袋などで重しをしましょう。



床下が浸水すると、床下収納のふたが開いて水が入ってくる場合があります。重しをして浸水を防ぎましょう。



風呂の浴槽の水は流さずに溜めておきましょう。下水の逆流を防ぐことができ、生活用水としても利用することができます。

大事なものを高いところへ上げましょう。

水に浸かってしまうと、家財や家族の思い出の品も一瞬にしてゴミと化してしまい、浸水後には街中がゴミであふれかえることとなります。できる限り家財を高いところへ上げましょう。

